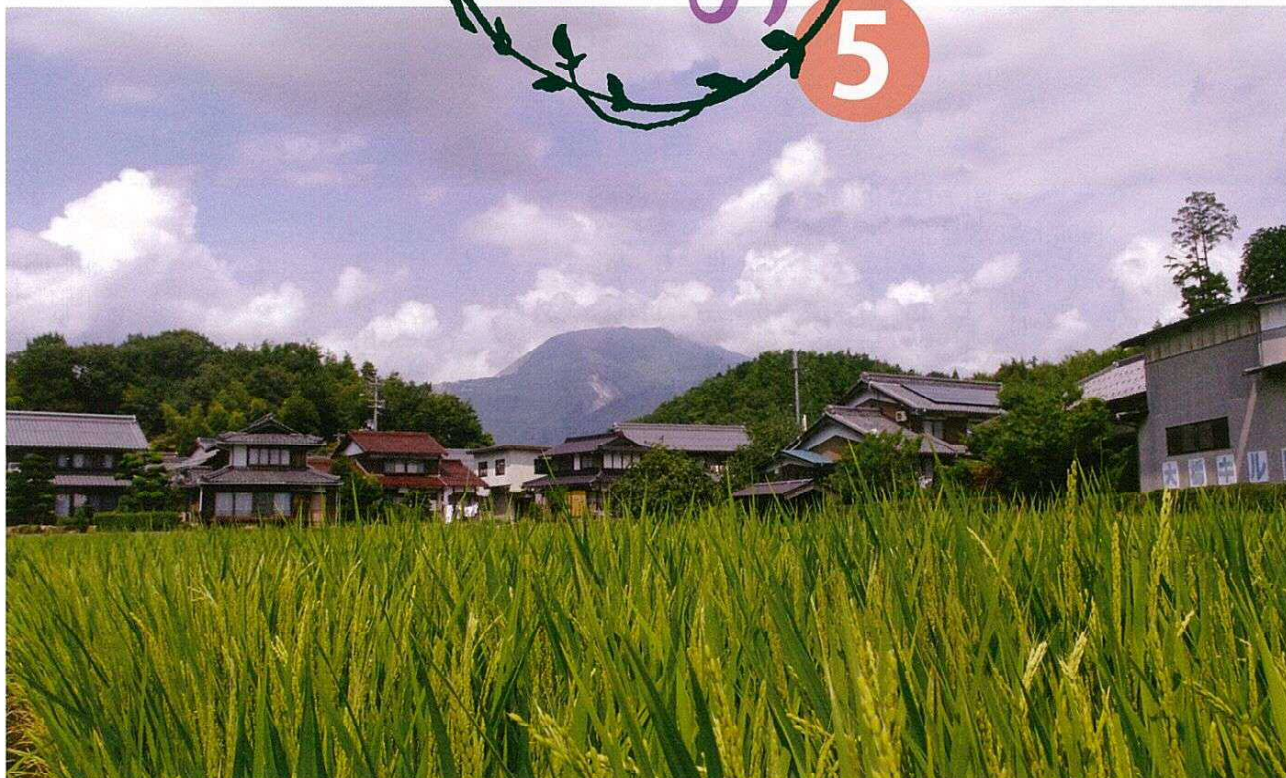


南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



「地の精気」

風薫る五月、いよいよ田植えの季節を迎える。長年、稲作に携わってきた方が「最近では稲ばかり作って田圃たんぼを作らない」といわれる。田圃さえいっかりと作れば、田圃が稲を育ててくれる。それなのに最近の手法はといえば、薬の力や機械の力で強引に稲を実らせて、収穫することだけを考えていると歎いておられた。

効率よく稲を育て、いかに利益を得るかを考える。しかし、合理化を進めていくことで土地がだんだんと痩せ細り、精気を失っていく。つまり大地の本来であるいのちを育むエネルギーが失われているのである。

昔は大地の精気を信じて田圃を作ることによって一生懸命に汗を流したものだという。大地のエネルギーに深い祈りを捧げ、もたらされた実りに深く感謝してこられた。それなのに今はもう人間の欲求だけが前提となり、このままではやがて本当に何の実りも生まれてこない荒れ地になってしまうのではないかと危惧されている。

人間のいのちも本来、大地の世界に育まれているものである。人間の人生プランを大地に押しつけるのではなく、育まれているいのちの世界に目を覚ましていく。それこそが人生を实らせていく道である。

「お義父さんの言葉」

吉川 昌子さん



お父さん（義父 芳夫）は、いつでも、お念仏（ねんぶつ）していて、その姿に影響を受けました。お父さんは、すぐに親鸞（しんらん）聖人（せいじん）のお話を、家族の誰（だれ）にでもして、その時はうるさいと思（おも）いましたけど。昭和五十九年（しやうわごじゅうきゅうねん）お父さんが亡（な）くなつて、遺品（いひん）を整理（せいり）していたら、書置（かき置き）が出てきまして、遺言（いごん）なのですけど、亡（な）くなる十年（じゅうねん）も前に書（か）かれたもので、「論教示（ろんきょうし）」と題名（だいめい）がありまして「宿縁（しゆくえん）ありて浄土（じやうど）真宗（しんしゅう）の流れ（な）を汲（く）む家庭（けいたい）に生（な）を受けたり、寿命（じゆめい）の約束（やくそく）事（こと）なれば、如何（いか）なる死（し）に方（かた）をするやも知（し）れず。力（ちから）尽（つ）きて命（いのち）終（は）わり、この世（よ）を去（さ）るや、御仏（みほとけ）の一人（ひとり）働（はたら）きにより、お浄土（じやうど）に参（まゐ）らせて頂（たか）くと御教解（ごきょうげ）を得（え）て深（ふか）く信（しん）ず。他界（たかい）後（ご）を思（おも）い偲（しの）ぶ事あれば、私（わたし）は南無阿弥陀仏（なむあみだぶつ）の中（なか）にあると信（しん）じて、念仏（ねんぶつ）致（いた）しなさい。」と記（し）されていました。

「私は南無阿弥陀仏の中にある」という、お父さんの言葉が、私をお寺さんへ導いてくれました。

西徳寺の婦人会には、お母さん（義母 春子）が亡くなってからですから、平成五年頃から寄せてもらっ

ようになりました。初めは大谷総長に誘われ、入ったのですが、そのときはよく分かりませんでした。副会長を九年して、会長は三年目になります。婦人会の活動のなかで、人と人の繋がりが私を育てて頂いていることに気づかされ、今はこのご縁に深く感謝しております。

法話を聞くと、自分に気づかされます。以前は、うまく行かない事があれば人のせいと思っていました。これも事の成り行きで、当然なんだと思うようになりました。自分で気づかなければ、前に進めないと分かったんです。だから、全部知らなくてもいい、取り敢えず動いてみる。仏教用語はまだ分からないのですが、お話の内容は伝わって来るようになりました。「感謝しなさい」とか「なにになしなさい」と人に勧めることでなく、「気がつくこと」なんだと、気づかされました。

婦人会に大勢の人が足を運んでくれればと思っています。一人でも多くの人に真宗のお話を聞いて欲しいのです。

（聞き手 岸本 秀二）

「なんで？」
6
「和讃」

いつも仏事のお勤めで終わりの方に、節の付いた歌のようなものを唱和しています。それは和讃といいます。和讃とは、七五調の口ずさみやすい言葉で表現された和語による讃歌です。

親鸞聖人の著された和讃は全部で五百十余首ありますが、その中の「浄土和讃」、「高僧和讃」、「正像末和讃」の三つで「三帖和讃」とよばれるものを主に唱和しています。

親鸞聖人の和讃は聖人が遇いえたよき人々との出遇いのよろこび、遇いえた念仏の教えを多くの人々と声をそろえて讃嘆したいという願いから生み出されたものであります。言葉の意味を解釈するよりも繰り返し声に出し、言葉の響き自身をひたすことが大事なのでありますように。

十二光の六番目は、清浄光で、欲をはなれた阿弥陀仏の清らかな光です。親鸞聖人は、清浄光について、「道光明朗超絶せり 清浄光仏ともうすなり ひとたび光照かぶるもの業垢をのぞき解脱をう（仏の覚りから放たれるすぐれた光は明朗であるから、清浄光仏ともうす。ひとたびこの光に照らされると、根こそぎ身心の垢が洗い出されて、あらゆる想定から解放されていく身になる）」と和讃されます。

自己愛と地域エゴに縛られているわれらは、ゴミ置き場一つにも、遠くてもいや近くてもいやと、不満を募らせ、欲の多い生活をしています。そういう欲への埋没そのものが問題だと、足下を見直すには、「道光明朗超絶」「弥陀の光、明らかに勝れたりとなり」と左訓されるような、人間の心を超えた阿弥陀仏の光に遇う以外にありません。それで、清浄光は「業垢をのぞき解脱をう」といわれます。業垢の左訓には、「悪業煩惱なり」とあるように、光に照らされると、身を煩わし心を悩ますのは、欲であった

と懺悔するまっさらの道が開かれます。この目覚めのみが、欲に縛られない自由の道、「解脱をう」ことでであると教えられます。

七番目は、「歓喜光」で、怒りや腹



しょうしんげ 正信偈の話⑨ 松井憲一
しょうじょうかんぎちえこう しょうじょうかんぎちえこう
ふほうむりょうむへんこう 無碍無対光炎王、清浄歓喜智慧光、
ふだんなんしむじょうこう 不断難思無称光、超日月光照塵刹。一切群生蒙光照。
（あまねく、無量・無辺光、無碍・無対・光炎王、清浄・歓喜・智慧光、
不断・難思・無称光、超日月光を放って、塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る。）

を帰命せよ（阿弥陀仏の慈しみの光は、すべての方向に行きわたり、この光の当たるところは、まことに出遇った喜びがあふれでる。大きな慰めとなる阿弥陀仏を、帰依しよう）」と和讃されます。

谷川俊太郎さんの「シミ」という詩に、「妬みと怒りで汚れた心を 哀しみが洗つてくれたが シミは残った 洗つても洗つても おちないシミ

今度はそのシミに腹を立てる 真っ白な心なんてつまらない シミのない心なんて信用できない

と思うのは負け惜しみじゃない できればシミも

こみで キラキラしたいのだ（万華鏡のように？）」「（こころ）二月の詩・朝日新聞」というのがありました。

いかり・はらだち・そねみ・ねたむ心は、一時消えたように思えても、業が湧くというように湧いてくる心ですから、どうしようもありません。そのような私のすべてを見通す光が、慈光です。だから、慈光は、「あわれむひかり。慈は父の慈悲にたとふるなり」と左訓されて、腹立ちは消えないと真向かいになって指摘した上で、腹立ちもふくめてキラキラさせる阿弥陀仏のはたらきを、父の慈悲に譬えるのです。

この厳しい父の愛に出遇うことが、「みのりを喜ぶなり」と左訓される「法喜」なのです。それで、「大安慰」には、「大安慰は弥陀の御名なり。一切衆生のよるずの歎き、憂え、悪しきこと皆失ふて、安くやすからしむ」と左訓されます。万華鏡に入ればわずかな紙の切れ端も、その時に応じて他と関わりあいながら見事な華を咲かせます。南無阿弥陀仏と聞かえらるると、腹立ちで狂う心を解きほぐし、安く落ち着く世界が恵まれると。それで、大安慰である阿弥陀仏に帰命しようと呼びかけられるのです。

「山門の言葉」

正定の業とは

すなわちこれ

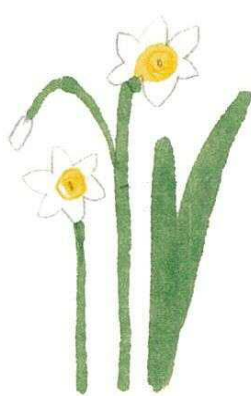
仏の名を

称するなり

今回の御文は、親鸞聖人が師とされた法然上人のお言葉です。「仏の名を称する」とは、南無阿弥陀仏を称えることです。法然上人はお念仏を称えることが正定の業、浄土に生まれる原因だといわれました。

親鸞聖人は法然上人の言葉を受けて、「正信偈」に「本願名号正定業」と書かれました。本願の名号を称えることが、正しく往生が定まる行業だと聞き取られたのです。聞き取られたことを忘れないように偈にされた姿勢からも、この教えを大切にされたことが伺えます。

私は、法然上人からだけでなく、上人のお話を聞きとられた町の



人々からも教わっていたのではないかと感じています。年齢も職業も異なる人々との関わりの中で、自分とは一体どういう身なのかということ、を、何度も気づかされたのではないのでしょうか。

自分にさえ成り立った「仏の名を称する」ことが、どんな人にも成り立つ教えであると知らされたのでしよう。

いつでも、どこでも・誰にでも成り立つ教えでなければ、人を救う教えにはなりません。人を救う教えこそ仏の名を称することなのであります。

(高橋 淳 記)

葬儀

あれこれ

1

お身内が亡くなられた場合、ご家族はどのように準備を進めたら良いのか。葬儀を営むにあたり、手順についてお答えします。

お身内が亡くなったら、速やかに西徳寺へ連絡をしてください。その際、西徳寺の予定をできる限り考慮していただき、葬祭業者とご相談の上、通夜・葬儀の日時や会場を決めていただきます。

最近ではセレモニーホールや地域の会館などで営まれることが多くなりましたが、西徳寺においても(本堂もしくは第二会館)勤めることができますので遠慮なくお申し出ください。

お布施については電話でご相談ください。尚、西徳寺では「葬式志」として二日分をまとめて納めていただきます。その際、法名料を別途納める必要はありません。

(主任 木村 記)



日 誌



- 3月14日 教行信証『信巻』に聞く(第77回)
講師 宗 正元師
- 3月17日～23日 春季彼岸会
- 3月22日 聖徳太子奉讃会・本山特派布教・
春季永代経法要
布教使 源 善浄師
- 3月24日 混声合唱団「エコー」練習
同行会修習式「正信偈の教え」に聞く
法話 木村主任
- 3月26日 東京教区会
- 3月27日・28日 宗祖忌
- 4月1日 中央ブロック会聞法会
(湯島天神・梅香殿 参加者 32名)
- 4月7日・8日 中興忌
- 4月10日 仏具磨き 参加者 15名
責任役員会・総代会



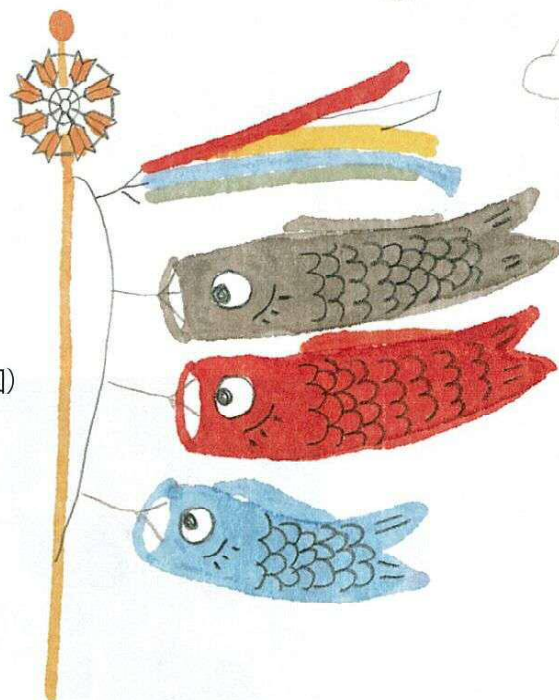
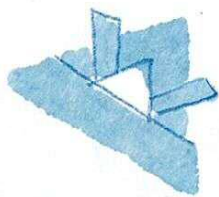
えこお志お礼

大阪府堺市	慈光寺様
滋賀県竜王町	光明寺様
徳島県	常円寺 様
台東区	磯田 範雄 様
新宿区	赤堀 徹 様
練馬区	関本 淑子 様
川崎市	田名網 綾子 様
蕨市	東谷 陽一 様
品川区	赤谷 恭子 様
福生市	木野村 幸彦 様
江戸川区	谷 晋一 様
練馬区	中島 幸子 様
板橋区	木下 好江 様
葛飾区	加藤 護 様
台東区	吉川 明子 様
世田谷区	山瀬 一枝 様
鎌ヶ谷市	鈴木 秀夫 様
江戸川区	橋本 サワ子 様
さいたま市	原島 眞理 様



掲示板

平成24年 5月



- 12日(土) 午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 大橋 伊知郎
- 17日(木) 午後1時半 教行信証『信巻』に聞く(第79回)
講師 宗 正元師
- 19日(土) 午後1時半 定例聞法会
- 20日(日) 午後2時 城西ブロック会総会・聞法会
(中野商工会館)
- 22日(火) 午後7時 仏教青年会「歎異抄」に聞く
講師 宗 正元師



- 23日(水) 午後1時 婦人会聞法会
本山リーフレットに聞く「私のいのち」
- 26日(土) 午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く
法話 高橋 淳
- 27日(日) 午後2時 城南ブロック会総会・聞法会
(大井町きゅりあん)
- 30日(水) 午前10時 勝友会布教大会

編集後記

先月の28日・29日の両日、親鸞聖人750回大遠忌法要が大勢の参詣のもと盛大に勤修されました。50年に1度のご法縁に出遇わせていただき、ご門徒の皆様と共にお念仏のご法義を慶ぶことができました。この度の勝縁を機縁とし、あらたな聞法生活を踏み出す第一歩とさせていただきたいと思っております。

(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス：<http://saitokuji.tobihiro.jp/>